

水ETF価格沸騰

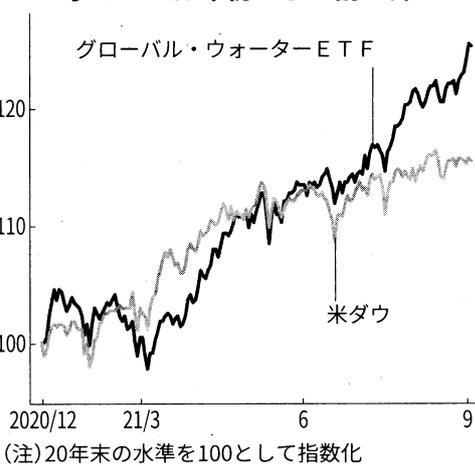
世界の水に関連した企業を運用対象とする上場投資信託（ETF）の価格が「沸騰」している。

SDGs（持続可能な開発目標）への関心の高まりで、きれいな水への需要が増しているためだ。干ばつなどで水不足は深刻になっており、半導体生産などにも影響を及ぼす可能性もある。こうした側面も「水ETF」の価格を押し上げている。

米インベスコが運用する「グローバル・ウォーターETF」は米国市場に上場しており、3日時点の市場価格は1口43・80ドルと2007年6月の上場以来の最高値圏にある。昨年末と比べると25%上回っており、ダウ工業株30種平均の同じ期間の上昇率を超えている。

米市場で上場来高値圏

水ETFは年初から2割上昇



純資産総額は8月末時点ですべて3億2689万ドルと今年に入って約4割増えた。組み入れ上位には、医薬向けだけでなく水質向けの検査機器なども製造する米ダナハー、水処理事業の米エコラボ、英米で事業展開し配管などを製造するファーガソンと

SDGs・半導体増す需要

高まっている」（薬天証の「世界生産の8割程度を米国が占め「早ければ10月から日本の流通価格も上昇しそうだ」（国内輸入会社）との声がある。国連食糧農業機関（FAO）が算出する世界の8月の食料価格指数（14と16年1100）は平均127・4と、1年前より3割以上高い水準だ。30億人超は水が不足する農業地域に住んでいるという。全世界で1人あたりが利用できる淡水は減っており、農作物の生育に懸念されている。

「（純度の高い）超純水の需要が増える」（グローバルウォーター・ジャパンの吉村和就代表）と見方が広がっている。約7割は農業向けで、水不足は食料価格の上昇にもつながる。米カリフォルニア州では干ばつでアーモンドの生産が落ち込んでいる。アーモンド

人気の背景の一つは世の中のSDGsへの流れだ。「安全な水とトイレを世界中に」はSDGsの目標の一つで「きれいな水を供給する企業や技術への注目度が上がる」と見られる。エネルギーへの影響も大きい。東京大学の沖大幹教授は、水の先物取引について「現物の受け渡しが難しいので投機マネーが入りやすい」と指摘している。今後、どれだけ水事情の実勢を反映していくかに注目している」と話している。山本裕二